

地域おこし協力隊が見つけた！

しらたかの鉄人！達人！



①自宅の休耕田を利用した「気晴らしの池」。5月下旬から一面にきれいなスイレンの花が咲き始める ②玄関先に並ぶ色とりどりの品々。池を訪れた人にお茶を出しながら紹介している ③「できないと思わないでやってほしい。慣れれば楽しいよ」と節子さん



「はげごとかご作り」

今野 節子さん（針生・68歳）

「好きな手仕事が人をつなぐ」

山形県の伝統工芸品であり、紅花摘みや山菜採りの際に収穫物を入れるために腰に下げる「はげご」。「もともと手芸が好きで、趣味の延長で作り始めたんだよ」と、節子さんは慣れた手つきではげごを編んでいきます。

はげごの作り方は、朝日町に住む義理のお姉さんから教えてもらったそうで、商品として売り始めたのは昨年の1月から。「買って、使ってもらえるとやっぱりうれしいね。でも、丈夫で壊れないからあんまり売れないんだよ」と冗談交じりに笑います。制作にあたっては、「選ぶ人

のことを考えて、なるべくたくさんの種類を作るようにしている」と話します。今では、はげごをアレンジしたかごやバックなども作っていて、自宅の側にある「気晴らしの池（写真①）」を訪れる人たちにも好評です。

「去年は池を見に来た外国人の方にもバックを購入してもらったんだけど、その人とは今でも連絡を取り合っているよ」と笑顔で教えてくれた節子さん。「人との縁はどこにあるかわからない。はげごを編むことで、いろんな人たちのつながりを築いているのかもしれないね」。

今年から新たにクラフトバンドのカバン作りに挑戦したりと、会うたびに新たなものを作っている今野さん。そのバイタリティー（活力）に驚かされます。好きなことに夢中になれるものがある人はやはり素敵です。これぞ「好きこそ物の上手なれ」ですね。



地域おこし協力隊
小野寺太樹さん

▼4月は風の強い日が多く、時折「暴風」が吹き荒れる日もありました。倒壊した高玉芝居のステージを実際に目の当たりにしたときは、正直「今年中止かな」と思いました。しかし、それをたったの2日で修復。児玉座長や有志の皆さんの、どんな強風にも折れない気持ちの強さに感銘を受けました。

▼白鷹町の地域おこし協力隊が6人になりました。皆それぞれに個性や考え、そして外からの視点を持っており、私自身いろいろと気づかされることも多いです。彼らが今後、町にどんな「新しい風」を吹き込んでいくのか楽しみです。

▼山形県縦断駅伝競走大会、今年も長井西置賜チームの選手として走らせていただきました。いつもは写真を撮る側の私ですが、このときばかりは撮られる側に。ただし、個人的に良い走りができなかったため、掲載は控えさせていただきますました……。応援してくださいました皆さん、ありがとうございました。来年こそは広報誌に載られるように、また一年がんばっていきたく思います。（てづか）

SELF JUDGE
編集後記